

より良い親子関係講座

NO 74



～子どもに真実を話そう～



小さい頃から子どもに真実を話すことはとても大切なことです。もちろん子どもの年齢や知識(能力)に応じてどのように伝えるのかは違いますが、子どもが理解できるようにわかりやすく伝える工夫が必要です。また、何もかもすべてのことを詳しく話さなければならないということでもありません。

私たち親は子どもに言うことをきかせるために、あるいは子どもは何もわかっていないと思って、子どもに「うそ」をついたり、「おどしたり」することがあります。たとえば「早く寝ないとお化けがくるよ!」とか「勉強しないと、お父さんみたいになるよ!」な～んてね。また、親が急いでいるときに「早くしなさい。置いて行っちゃうよ」とか「じゃあ、ママはもう行くからね。バイバ～イ」とか、そういうふうに言ってますか?

とくに「赤ちゃんはどこから生まれるの?」など、性に関する質問をされたとき、とっさに「うそ」をついてしまうお母さんもけっこう多いようです。あるお母さんは、中学1年生の息子から「セックスしたことある?」と聞かれて、「したことない!」と答えただけで、これってバレバレでおかしいよね～と、自分で笑っておられました。私は子どもの頃に「人はなぜ死んじゃうの?」と聞いたことがあります。その時、母は「そんなこと子どもが考えなくてもいい!」と言われ、がっかりしたことがありました。

ある心理学者は「赤ちゃんはどこから生まれるの?」とか「人はなぜ死んじゃうの?」という子どもの問いかけは「人間(わたし)はどこから来て、どこへ行くのか?」という哲学的な問いにつながるものだと言っています。ですから体に関する説明だけでは子どもは失望するだろう、あからさまに答えるのではなく、子どもの心の栄養となるような“イメージ”を与えることが大切だと言うのです。たとえば「遠い空の雲の向こうに、とても広い野原があって、あなたはそこで遊んでいたの。あるとき優しい神さまがあなたを呼んでお母さんのおなかに届けてくれたのよ。あ母さんのおなかの中で大きくなって、もうおなかの中では狭くなったのであなたは外に出たって言ったの。だからお母さんが出してあげたのよ」など、子どもの世界に寄り添いながら、話をすることの大切さを教えています。

子どもの質問にすぐに答えられないときは「それは、むずかしい質問だね。お母さんにもわからないから考えてみるね」と丁寧に応えてやるのが大事だと思います。また「なぜ聞こうと思ったのかしら?」と、子どもに尋ねるのもいいかもしれません。子どもに真実を話してやることは、その子としっかり向き合い、その子を尊重していることにもなります。幼いときから小さなことでも真実を話すことは、子どもが成長したとき、親の言葉は信じられるものであることを知るでしょう。そして成長した子どもにアドバイスしたり、相談に乗ったりしたとき、親の言葉にしっかり耳を傾けるのではないのでしょうか。

Reflections & Dreams

Recently I renewed my passport, which is good for travel overseas for another ten years. When the new passport runs out I will be nearing the age of 90!

When I led the first AP course in Fukuoka I was 48, the age of some of you now. Believe me, the years do pass by amazingly fast, and when one reaches my age, I guess it is natural to reflect on one's life a bit.

Looking back, I consider my best achievement was to help nurture our four children to become responsible, caring adults with broad worldviews.

I will add here that my communication with them improved greatly after I met AP in 1985. These days our adult to adult friendship is very precious to me.

My other sense of greatest satisfaction comes from the small part I played in bringing the AP materials into the Japanese language. Rev. Max Love who was the director of the Japan Baptist Mission at that time approved the project and provided the resources necessary for getting it done. I thank God for sending many capable people who used their talents in the various aspects of the project.

If I have a dream for the future of APJapan, it would be to have a revision of AP with the same principles of parenting (freedom within limits while teaching responsibility, courage and cooperation), but using Japanese actors for Japanese family situations in the “before and after” episodes on the video. Is that too big a dream? Not if someone with large resources understands what the skills embedded in AP could do for Japanese families and decides to lead the way in making it possible, as Rev. Love did so many years ago.

Just a thought--maybe I can use my passport one last time in 2027 to attend the premiere of the new revised AP video program in Japan!

The gratitude I feel toward Toshiko Nonaka is beyond expression. She has faithfully kept the spirit of AP growing and expanding across Japan. I am sending warm appreciation to her and to each of you leaders for what you are doing for families in your own neighborhood and around Japan.

June Seat, APJapan Founder and Friend



回想と夢

最近私は、この先10年の海外旅行用のパスポートを更新しました。新しいパスポートを使い切る頃、私は90歳近くになります！

最初のAP講座を福岡で始めたとき、私は今の皆さんと同じくらいの48歳でした。時が過ぎるのは本当に速いですね。人が今の私の歳になると、自分の人生を少しばかり振り返るのは自然のことだと思います。

思い返せば私の最良の業績は、自分の4人の子どもたちを責任感のある、広い世界的視野を持った思いやりのある大人に育てるのに役立ったことだと思います。

さらに1985年にAPに出会った後、私の、子どもたちとのコミュニケーションが大幅に良くなったことをここに付け加えておきます。この頃では大人同士としての友情が私にとって大変貴重になっています。

他の大きな満足感は、APの教材を日本語にする過程で果たした小さな役割に由来しています。当時日本バプテスト宣教団の理事だったマックス・ラブ師がこの企画を認め、それを成し遂げるのに必要な資金を提供してくれました。私は、この企画の様々な側面において才能を発揮してくださった多くの有能な方々を送ってくださった神様に感謝しています。

もし私がAPジャパンの将来について夢を持つとしたら、APの、親としての理念（勇氣と責任感と協力精神を培うための制限付き自由）はそのまま、しかし、ビデオでの“ビフォーアフター”のエピソードを日本の家族の現状向けに日本人の俳優を使った改訂版を出す、ということです。それは大きすぎる夢でしょうか？何年も前にラブ師がしたように、大きな資金を持ち、APに埋め込まれたスキルが日本の家族に何をもたらすかを理解し、作成を可能にする道を導く決断をする誰かがいるのではないのでしょうか？

ふと思ったのですが、もし日本での新しい改訂版APビデオのプレミアショーに出席するために、私のパスポートを2027年期限前最後に使うことができれば！

野中利子さんへの感謝は筆舌に尽くし難いほどです。彼女は忠実にAPの精神が日本人の中で成長し広がるように続けてこられました。私は彼女とリーダーの一人ひとりに、皆さんが日本中の家族や隣人にしてきたことに対して暖かい感謝を送ります。

APジャパン創設者・友人 ジューン・シート

訳：野口 紀子

～～APに感謝！！～～

福岡市 M・Yさん

子どもを育てながらいつも思っていたのは、「子育ての教科書があればいいのに！でも子どもは一人ひとり違うから子育てに答えはないよね・・・。どうしたら、この子たちをふつうのよい子に育てられるのかしら・・・」ということでした。

そのころ、中学1年生だった3番目の次男は特に主人にそっくりで、私には理解できない行動ばかりでした。中学に入学して初めての期末テスト前日の日曜日、部活も休みなので「しっかり勉強してね」と言い残して、私は仕事へ行きました。夕方、私が帰宅したとき、息子の姿はなく、夜の8時頃に帰ってきた彼は「お母さん見て！！小アジが600匹も釣れたよ！！」

息子は、私が仕事に出た朝10時から夜8時まで、お昼も食べないで10時間も釣りをしていたのです。激怒する私。疲れ果てて眠ってしまった息子。次の日のテストは100点満点中4点でした。どうしてこんなダメな子に育ったの？息子のことが理解できない・・・。どうにかして息子をふつうのよい子に育てたいと思い、APを受講しました。

初めての講座の日、涙ながらに息子の話をすると、野中先生が「なんてステキな息子さん！一つのことになんか夢中になって、一生懸命に打ち込めるなんて！！」と、キラキラした笑顔で言われました。私は「えっ、何言ってるの？ちゃんとした子育てを習いに来たのに・・・」と戸惑いました。でもほめられると嬉しいもので、その夜息子に「あなたってステキな子どもなんだってよ！」とすることができました。

また、真ん中の娘は日頃から何でも話してくれて、私のいうこともよく聞いてくれ、私にとってはとても良い子でした。しかし、高校に入っすぐ学校に行けなくなりました。きっと中学の部活とは違い、高校の部活が厳しすぎるせいだ。でもここで負けたら3年間つらい思いをするだけ・・・。今日は休んでいいけれど、明日はがんばろうね！と、娘を励ましていました。でもAPで野中先生から「無理をしなくていいよって、娘さんに心の底から言ってあげて」と、言われました。しかし無理をしてでも、がんばって学校に行ってくれないと、このままずっと学校に行けないかも。私はとても不安でしたが、勇気を出して気持ちを込めて「無理をしなくていいよ」と、娘に言葉をかけることができました。

すると、次の日から嘘のように学校に行けるようになったのです。娘は部活のせいだけではなく、私からのプレッシャーに押しつぶされそうになっていたのでしょう。

APと出会って10年。子育てに自信がなく、私が願っていたふつうのよい子のレールから子どもたちが脱線するたびに不安で不安で、悩んだり怒ったりしていたのが、ありのままの子どもたちを愛せるようになりました。

「大丈夫、いいのよそれで！」と、私が勇気づけられたおかげで、私もまた子どもたちを信じ「あなたが選んだ道を進めばいいよ。あなたならきっと大丈夫。回り道したって、ゆっくりだって大丈夫！」と言えるようになりました。

この春、次男は就職のために巣立っていきました。APに出会っていなかったら、こんな日がわが家には訪れていなかったかもしれません。野中先生とAPの仲間に感謝しています。今度は私が出会う人たちにAPを伝えることができるようにリーダー養成講座にチャレンジします！！



しゅんすけ(3歳) 日記 その④

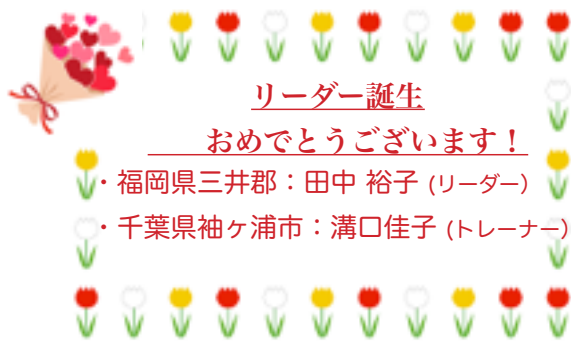
朝食は「ご飯とお味噌汁」のわが家。しかし「ピザが食べたい！」と朝からわがまま言って泣いているしゅんすけ。あいにく食パンもないのでピザトーストもできません。

「明日ピザ食べようか」「じゃあ、オムライスは？」「肉まんならあるよ」って言っても、「今日の朝はピザ！」と頑固なこと。お父さんは「今日は朝ご飯なしで保育園だね。そんな日もあるよ。無いものはない」と。

朝食なしで保育園に行かせるのはかわいそうなので、白いごはんを平たくつぶして、フライパンで焼いて、その上にケチャップとチーズとトマトをのせて焼いてあげました。

ピザ風おやきをペロリと完食。満足したようです。お父さんは「甘やかされてるね～」と言。

これは甘やかし、それとも愛情？

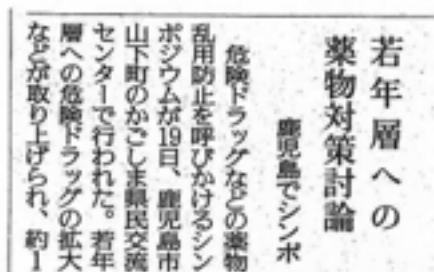


リーダー誕生

おめでとうございます！

- ・福岡県三井郡：田中 裕子 (リーダー)
- ・千葉県袖ヶ浦市：溝口佳子 (トレーナー)

リーダー養成講座を受講された方でまだレポートを出しておられない方はできるだけ早く提出をお願いします。トレーナーの方はしっかりサポートして下さい。現在リーダー養成講座を受講される方が4名おられます。若いリーダーさんが活躍して下さいのは大歓迎です！



若年層への薬物対策討論
鹿児島でシンポジウムが19日、鹿児島市山下町のかこしま県民交流センターで行われた。若年層への危険ドラッグの拡大などが取り上げられ、約1

80人が耳を傾けた。厚生労働省九州厚生局麻薬取締部の情報官が基調講演し、薬物犯の再犯率の高さや薬物依存から抜け出す難しさなどを説明した。その後、子育て支援会社「アクティブ・ペアレンティング・ジャパン」(福岡市)の野中利子代表が講演。自らの経験などを基に、子どもとのコミュニケーションの取り方や、家庭内に子どもの居場所をつくることの大切さなどを訴えた。

最近の子どもの状況について、 または家族教育について ～最終レポートより～

福岡県三井郡 田中 裕子

昔は同居が当たり前でしたし、近所の方も自分の子どもだけではなくて、周りの子どもの面倒もいっしょに見て、叱ったりもしてくれていたように思います。

しかし、今は同居の経験をした方々が「お嫁さんには自分と同じような思いをさせたくない」などといった、良い意味で、割り切りの良い時代になりました。また、県外に就職や転勤をして、そこで結婚するといった現代の社会情勢のなか、核家族も増えました。

それに人間関係が希薄になって「自分は自分」「人は人」と、お互いが無関心になって、子どもを育てる大人が親だけになってきたように思います。とくに日本では母親の肩にずっしりと形の见えない責任が負わされているように感じます。

このような状況の中、母親も自分に余裕がもてないまま子育てしているの、その影響下で、親の顔色を伺いながら大きくなっている子どもが多いのではないのでしょうか。

さらに濃くなる「人は人」精神で、社会でも教育現場でも「責任」の明確化により息苦しい世の中になっているようで寂しく思います。

子どもは「未来の象徴」です。今、私たち大人ができることを一人ひとりがかんがえていけたらいいなと思います。



1月19日、鹿児島にてシンポジウムと講演会に参加しました。その時の記事を読売新聞と南日本新聞に掲載していただきましたのでご紹介します。主催は鹿児島県と県薬物乱用対策推進地方本部です。参加者は学校関係者、保護司、福祉関係者などのかたがたが180名ほど。私は親子のコミュニケーションの大切さや、セルフエスティームを育てることで薬物に依存しない子どもを育てるという話をしました。

80人が耳を傾けた。厚生労働省九州厚生局麻薬取締部の情報官が基調講演し、薬物犯の再犯率の高さや薬物依存から抜け出す難しさなどを説明した。その後、子育て支援会社「アクティブ・ペアレンティング・ジャパン」(福岡市)の野中利子代表が講演。自らの経験などを基に、子どもとのコミュニケーションの取り方や、家庭内に子どもの居場所をつくることの大切さなどを訴えた。

20年近くAP講座を開いていると、勇気づけられることや感動することが山ほどある。中でも受講生であるお母さんと子どもの成長をじかに感じる事が講座を続けてこれたいちばん大きな力になっていると思う。

ある日のこと、携帯電話が鳴った。電話の向こうで、「息子が」と言ったままTさんは泣き出した。しばらく待つと、「親子関係講座、受けたいです。どうしたらいいですか？」切羽詰まった様子なので「今から来られますか？」と尋ねてみた。すぐに「はい行きます！」と言う返事がきた。

目の前に現れたTさんは40代？ モデルさんみたいに背がすらっと高く、背中まで伸ばした黒髪がとてもきれいだった。夫と3人の息子がいる。高校3年生の長男、中学2年生の二男、そして小学1年生の三男である。電話口の「息子が・・・」というのは、高校生の長男のことだった。

長男は高校3年生の一学期になって急に学校に行かなくなったという。成績はつねに上位で、小中学ともに問題はなかった。「小さい頃から物わかりのいい、手のかからない子だったのに・・・」と話された。とにかく急に学校に行かなくなったので、何が何だかわからなくて、なだめたり叱ったりして登校を促したけれど、息子は頑として動かなかった。とうとう数日前から自分の部屋にこもってしまい、部屋から出てこない。ご飯も食べない。Tさんが声をかけても返事もない。もう心配で、心配で・・・と、いう話だった。部屋に閉じこもるのはよしとして、ご飯を食べないのは心配です。ご飯は息子さんの部屋の前に置いて置くこと。その時に「あなたの身体が心配だからご飯だけは食べてね」と3回くらい部屋に向かって話しかけて下さい」と、それだけをTさんに伝えました。次の朝「ご飯食べてました！」と、弾んだ声で報告の電話がありました。

さて、次は、「ごめんね、あなたの気持ちに気づかないで・・・」と、再度声をかけるように言いました。Tさんは長男の食事を部屋に運ぶたびに、私に言われた通り、これも3回くらい声をかけたそうです。すると、どうしたことでしょう。翌日の夕暮れに、長男が部屋から出て来たのです。そして、長男は何も言わずにリビングの椅子に腰掛けました。Tさんは、思いもかけない息子の行動に動転して、何を話していいのかわからず、トイレから私に電話をかけてきました。

「あのう、今、息子がリビングにいますけど、私、何って言ったらいいのかわからなくて・・・」「あなたは何も喋らないでいいよ。黙って息子さんの話を聞いてあげて下さいね。そして、そうだったんだね。あなたの気持ちに気づかないでごめんね。そんなふうに思っていたのね。その言葉をくり返して下さい」と話しました。

長男は、小さい頃からどんなにがんばってもお母さんはボクを褒めてくれなかった。ボクを認めてくれなかった。あの時はこうだった、この時はこうだったと、自分の気持ちを次々と吐露したそうです。お母さんは長男が話す出来事のほとんどを忘れていたらしいのですが、私に言われたように「そうだったんだね」「嫌な気持ちだったんだね」「悔しかったんだね。気持ちに気づかなくてごめんね」と、ひたすら息子の気持ちを受け止めたそうです。

次の日も、その次の日も長男は夕刻になると、フラットリビングに現れました。そして「お母さんがボクの気持ちをわかってくれなかった」という話を何度もしたそうです。それをTさんは黙って聞きました。話を聞いていると、だんだんと息子の気持ちが自分のことのようにわかる気がしたと言います。

ある時、「親としてちゃんとあなたのつらい気持ちをわかってあげなくて申し訳なかったね。心から謝ります」と言ったとき、長男が「もういいよ。お母さんの気持ちはわかっているから・・・」と返してくれたそうです。

それから、長男は「もとのいい子」に戻りました。もとのいい子に戻っても、Tさんは講座で学んだ「勇気づけ」を忘れないでやり続けたそうです。「もう部屋に閉じこもってもらいたくないから」と言う一心で・・・。

その後、長男は通信高校で単位をとり、そしてオーストラリアの大学に留学することになりました。もちろん留学は自分で決めたそうです。

フォローアップの日、Tさんは「初めは気持ちを受け止め、寄り添うことはむずかしかったけれど、息子がだんだん変わったのでビックリしました！」

と嬉しそうに話してくれました。その時のTさんの笑顔、まぶしいくらいにキラキラと輝いていました！

(APジャパン代表 野中利子)



読んでいますか「本」！！

お薦めの本！！

☆「最高のリーダーはなにもしない」

藤沢久美著 ダイアモンド社

☆「子育てのツボ」水谷修著 日本評論社

夜回り先生50のアドバイス

☆「子どもが孤独（ひとり）でいる時間（とき）」

エリーズ・ボールディング著 松岡享子訳

☆「この嘘がばれないうちに」川口俊和著

コーヒーが冷めないうちにの続編です！

☆「より良い親子関係講座」

マイケル・ポプキン著 手塚郁恵訳

野中利子監訳



💖 AP講座について 💖

日本でのアクティブ・ペアレンティング（略称AP 以下APと称す）の歴史は1985年から始まりました。今日、私たちがAP講座を受講できるのはAPジャパン創始者のジーン・シートさんの熱意と尽力のお陰です。私は1998年からジーン・シートさんの後を引き継ぎ、APジャパンの代表として20年になろうとしています。その間には講座を開いたり、講演会でお話をさせていただいたり、また多くのリーダーやトレーナーも育てて参りました。現在リーダーたちは日本全国、いろいろなところで活躍しています。

さて、「AP」は「テキストとビデオを使って開く講座」です。受講者はテキストの購入が必須です。テキストが手元にあれば、後でまた読み直し、内容を深く理解することもできます。かならずテキストを購入して下さい。「オリエンテーション」や「体験講座」に参加される場合は購入の必要はありません。

お知らせ致します！！

「NPO法人アクティブ・ペアレンティング共育サポート」は4月から名称を変更されました。新しい名称は「NPO法人ペアレント・スキルアップ福岡」です。APの他にも金銭教育などの事業を展開されます。また、APジャパン副代表の野口紀子さんと佐藤由美さんは2016年12月末日をもちまして副代表を退任されました。お二人とも長い間ありがとうございました。

♡ ご連絡コーナー ♡

◎ 「APのつどい」 および「リーダー研修会 in関東」についてのお知らせ

- ・「APのつどい」 日 時：7月7日(金) 10時から13時
場 所： 常盤台バプテスト教会にて 東京都板橋区常盤台2-3-3
参加費：500円
- ・リーダー研修会 日 時：7月8日(土) 10時から16時
場 所：東京ウィメンズプラザ
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67
参加費：5,000円

リーダー認定を受けられて、まだリーダー研修会に一度も参加されたことがない方は、8日の研修会にぜひご参加下さい。なおどうしても8日にお時間が取れない場合には7日のAPのつどいにも参加できますので、7日か8日のどちらかに参加して下さい。
なお「APのつどい」にはどなたでも参加できます。どうぞお友だちをお誘いの上、ご参加下さい。

◎ APジャパンのホームページを開いたことがありますか？ PCだけではなく、スマホでも見ることができます。

季刊誌「リンク」は、新春号、春号、夏号、秋号と年4回発行しております。ホームページ上にPDFとしてアップしておりますのでどうぞご覧下さい。常時2年間分を公開していきたいと考えています。また、これからのAPジャパンの活動スケジュールはホームページでもお知らせしていますので、お見逃しのないようにお願い致します。なおリーダーの方々は、季刊誌「リンク」は、ホームページ上でご覧下さい。初めて講座を受講する受講生には、初回のみ郵送致します。リーダーの方は講座が始まりましたすぐに名簿をお送り下さい。

◎APジャパンでは、リーダーの勉強会を開いています！

APジャパンでは、昨年9月から第一月曜日10時から12時までリーダーのための勉強会をしています。日程、場所などはホームページのトップページ、APジャパン今後のスケジュールに掲載しております。5月は第一月曜日がゴールデンウィークになりますので、第2週、8日に変更になります。リーダーの勉強会ですが、講座のアシスタントや実際に講座を担当していただき、ご自身の講座を開けるよう、ていねいにサポートします。
5月8日(月曜日) 10時から12時です。場所はAPジャパン本部（城南区茶山2-2-5 ☎090-8391-3196）参加費無料。

◎受講生のためのフォローアップ講座を毎月2~3回開催しています。APの受講生ならどなたでも参加できます！ フォロアップ講座に参加しましょう！！

受講したものの、なかなか思うように行動に移せない！他の受講生の話も聞きたい！APを忘れないようにしたい！実践できるようになりたい！もう少し学びたい！
そのような方のためのフォローアップ講座です。他の受講生との交流も楽しいですよ。どうぞ気軽に参加して下さい。なお、フォローアップ講座は日程が毎月変わりますので、ホームページ、あるいはお電話にてお問い合わせ下さい。また、どうしても日程が合わなければお知らせ下さい。ご相談に応じます！
場所はAPジャパン本部（城南区茶山2-2-5 ☎090-8391-3196）あるいは糸島支部です。参加費は1,000円です。

APジャパンからのお願い

☆ 講座が始まりましたらすぐ受講生の名簿(名前、住所、電話番号)をお送り下さい。その際には郵便番号とお名前にふりがなをつけてお送り下さい。また転居された場合はご連絡下さい。

☆ 年会費はリーダー資格登録年会費(6,000円) トレーナー登録年会費(10,000円) となっております。登録年会費はかならず年内に納入をお願い致します。

☆ リーダーの方で退会される場合はかならずご連絡下さい。

☆ APジャパンの住所内(本部)には誰も常駐しておりません。テキストの注文や受講生名簿の送付などのAPジャパンへのご連絡は、できるだけ携帯電話あるいはメールでお願いします。

☆ テキスト(4,000円) キット(50,000円)などの教材は講座を受講しなくても電話注文で、購入することができます。

APジャパン本部(代表 野中 利子)

☎: 携帯電話: 090-8391-3196

携帯メール toshiko-mama-718@ezweb.ne.jp

P Cメール apjapan@activeparenting.or.jp

あとがき: 「リンク 春号」無事に発行することができました。毎回原稿を書いて送っていただいているジューンさん、そしてそれを翻訳して下さっている野口さんには感謝しています。ありがとうございます。

1998年にジューンさんからAPジャパンを引き継ぎ、そろそろ20年になるとうとしています。それまで年4回、季刊誌「リンク」は休むことなく発行してきました。「毎回とても楽しみに読んでいます!」と、お便りを下さった受講生やリーダの方にはいつも勇気づけられています。感想や励ましの言葉をいただいているおかげで一度も休むことなく書き続けてこれたと思っています。やはり言葉で勇気づけて下さると嬉しいです。

「愛は名詞ではなく、動詞」ですから、ここで思っているだけでは伝わりません。言葉や行動、態度で示さなければ、何も伝わらないのですから。勇気づけて下さった方々がこのようにAPをしっかりと実践して下さっているのは、ほんとに嬉しいです。「当たり前だと思ふことも言葉にして励ます」ととても大切なことですね。今年もまた夏号、秋号と引き続き発行していく予定です。皆さまに原稿のご依頼をお願いするかと思います。そのときはどうぞこころよく引き受けて下さいね。よろしくお願い致します。



APP社のホームページ

<http://www.activeparenting.com>

APジャパンのホームページ

<http://www.activeparenting.or.jp>

「リンク」はAPジャパンの印刷物です。

© 2017 発行者 APジャパン

代表 野中 利子

〒814-0111

福岡市城南区茶山2-2-5 (本部)

電話: 090-8391-3196

FAX: 092-851-8606

apjapan@activeparenting.or.jp

「リンク」は年間4回の発行しています。